

加古川市は、瀬戸内海の播磨灘に面し、県下最大の河川である加古川をはじめとする多くの河川、水路、ため池などの水辺空間に恵まれています。また、市の北部には、播磨中部丘陵県立自然公園の山々が連なり、豊かな自然と都市が調和したまちとして発展してきました。

私たちは、この豊かな自然を次代に継承するため、「ひと・まち・自然を大切にし、ともにささえ はぐくむまちづくり」を基本理念とする加古川市総合基本計画を定め、「うるおいのあるまち」をめざして、取組を進めています。

世界中で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症も、世界的にようやく落ち着きを取り戻しつつある中で、地球温暖化による気候変動によって引き起こされる大規模自然災害が毎年のように発生しており、私たちの暮らしを大きく脅かしています。我が国では、このような地球規模の環境問題から国民の生命や暮らしを守るため、「気候非常事態宣言」が決議されたことで一層の環境問題への意識が高まっています。

そのような中、本市においてもSDGsの考え方をもとに、「持続可能な発展をめざすまち 加古川～いきいきと成長できる未来の環境へ～」をめざす環境像として掲げた第3次加古川市環境基本計画を推進しております。

また、令和3年6月には「加古川市気候非常事態宣言」を表明、令和4年2月には2050年二酸化炭素実質排出ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ宣言」を表明し、市民、市民活動団体、事業者、学識経験者、行政が一体となった二酸化炭素排出量の削減や、さらなるごみ減量・資源化の取組を積極的に進めているところです。

今後も、市民や事業者等と行政が協力・連携して、様々な環境施策を推進してまいります。

本書は、令和3年度の環境保全に対する取組状況と、ごみ処理・し尿処理業の現況をまとめたものです。皆様方には、本市の環境問題についてご理解を深めていただき、今後、より一層のご指導を賜りますよう、お願いいたします。

令和4年9月

加古川市長 岡田 康裕